

第50回全国高等学校総合文化祭 あきた総文 自然科学部門参加報告

◇期 日:令和8年7月29日(水)~31日(金)

◇場 所:秋田県 JAビル

◇参加者:SS 化学部員 2名

◇引率者:SS 化学部顧問 浮田直美先生



あきた総文の自然科学部門には、全国から多くの高校生が集まり、発表の他にも巡検研修、生徒交流会などがありました。それぞれの学校で取り組んできた、さまざまな研究の成果を発表しあう貴重な機会となりました。

総文祭の開催県である秋田県には、東北三大祭りの一つである竿灯まつりや、きりたんぽ、稲庭うどん、比内地鶏、ババヘラアイスなどの食文化があります。竿灯まつりが8月3日から開催されることもあり、私



たちがバスに乗っていると、通りからお囃子が聞こえたり、提灯がたくさん飾ってあったりしました。また、千秋公園には、大きなハスの花がたくさん咲いており、圧巻されました。

私たち SS 化学部員は、「強塩基性銅(Ⅱ)錯イオン溶液に浸けた真鍮表面に生じる彩り豊かな構造色」という題で研究発表を行いました。私たちの発表は休憩直後でした。10分という休憩時間も、緊張から異様に長く感じられました。ところが、発表を始めると緊張感がほぐれていき、聴いてくださっている方々に、私たちの研究の魅力を伝えることが出来たと思います。発表で使用したスライドには、図や表を多く入れ、分かりやすいように工夫しました。発表後には、他の都道府県の方や大学の先生方から質問やアドバイスをいただき、実りある総文祭になりました。



巡検研修では、私たちは、秋田大学鉱業博物館に行きました。数多く展示されているさまざまな色と形の鉱物や、鉱山設備に関連した貴重な資料などを目の前にして、詳しい解説を聴くことで、鉱物や資源開発について深く学ぶことができました。さらに、同定(鉱物に傷をつけ、種類を判別する方法)の実習を行い、鉱物の違いや構造について、理解を深めることができました。

生徒交流会では、秋田県の運営委員会の方々の秋田に関するクイズを楽しみました。

発表にあたり、今大会を運営してくださった関係者の皆様、支えてくださった皆様に感謝申し上げます。